

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おおすみ児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	77	(回答者数) 62
○従業者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員の育成体制	養成担当職員と2名体制で訪問を行い、実践を通して訪問支援員を育成している。	・振り返り(ケース検討・同行後のフィードバック)の定例化。 ・育成到達目標を明確にし、段階的に評価する仕組みづくり。
2	日常的に利用者に関わっている職員が訪問することで、普段の様子を円滑に共有できる。	・訪問前に事前確認を行い当日の共有事項を整理している。 ・日々の支援記録を確認したうえで訪問し、具体的なエピソードを交えて伝えている。 ・訪問先からの質問や意見をもち帰り、現場職員へフィードバックしている。	・他職員からの意見も取り入れ、多角的に検討する。 ・複数職員での同行訪問を計画的に実施する。
3	訪問先施設との関係性	・こまめな訪問により訪問先施設での様子を把握しやすい。 ・訪問時の情報共有が密で、双方の理解が深まりやすい。 ・普段の訪問先での様子の聞き取りを行っている。 ・観察の様子と保護者への報告の内容を口頭で訪問先施設の先生に伝えている。	・こちらの施設での様子を伝える。 ・積極的な意見交換を行い、支援の方向性を共有する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専任配置ができておらず、担当変更が生じやすい。	年度途中の退職に伴う担当変更により、保護者や訪問先施設との関係性が継続しにくい状況となった。	担当変更が生じる場合は、事前説明と引継ぎを徹底する。
2	訪問頻度や共有のタイミングに課題が見られる。	・経験の浅い職員が多い。 ・支援内容の説明やアドバイスの内容にばらつきが生じる。 ・報告書の記入に時間がかかっている。	・経験の浅い職員への同行支援やOJTを強化する。 ・訪問日から1週間以内に報告書を完成させる。
3	保護者との関係性	・訪問前の意向確認が不十分だった事例があった。 ・訪問内容のフィードバックが遅れたケースがあった。 ・計画作成の説明が後手になったとの指摘があった。 ・訪問先施設との調整を優先してしまったため、保護者への聞き取りが後回しになっていた。	・訪問前の意向確認を必ず行う体制に改める。 ・訪問後のフィードバックを迅速に行うため、共有方法(書面・アプリ等)を整備する。 ・保護者との情報共有の時間を定期的に確保する。